

◆選抜要項等で必要な入試科目を再度確認せよ！！◆

札幌医科大学 看護学科の入学者選抜要項

(3) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 看護学科 5～6教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法			
国 語	『国語』	必須			
数 学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ・数学A』	左記の2科目から1科目選択			
	『数学Ⅱ』『数学Ⅱ・数学B』 『工業数理基礎』『簿記・会計』 『情報関係基礎』 (注3)	左記の5科目から1科目選択			
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)			
地理歴史	『世界史A』『世界史B』『日本史A』 『日本史B』『地理A』『地理B』	左記の10科目から 1科目選択		左記の10科目から 2科目選択	
公 民	『現代社会』『倫理』『政治・経済』 『倫理、政治・経済』				
理 科	『物理』『化学』『生物』	左記の3 科目から 2科目選 択	左記の3 科目から 1科目選 択(同一 科目名を 含む選択 不可)	左記の3 科目から 1科目選 択	(注) (注2)
	『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』		左記の3 科目から 2科目選 択(同一 科目名を 含む選択 不可)	左記の3 科目から 2科目選 択	

(注1) 地理歴史・公民及び理科については選択方法が4つあります。
(注2) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。
ただし、理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。
また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。
(注3) 「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。
※旧教育課程履修者については、大学入試センターが実施する経過措置による科目の利用を可能とします。

左の札幌医科大学 看護学科の「平成 27 年度入学者選抜要項」(現 3 年生の入試)を例にとって、気をつけなければならないポイントをみてみましょう。

- ①今年の入試科目は、浪人生(旧課程履修者)、3 年生(新課程履修者)とが混在する近年まれにみるややこしい年です。ゆえに、「丁寧に」調べ込むことが大切です。
- ②左のような表と注をしっかりと「読解」できない人はその大学に行けないのです。それにしても、複雑です。1・2 年生のみなさん、左の表を読んで理解できますか。
- ③理科の選択パターンは、表面の通り A～D の 4 種類です。
A は理科①から 2 つ。つまり基礎の付いた理科から 2 つ。主に文系の生徒です。
D は理科②から 2 つ。つまり基礎の付いていない理科から 2 つ。主に理系の生徒です。
問題は C パターンで受験する生徒です。理科基礎 2 科目と理科 1 科目です。この場合、同じ C パターンでも 2 種類あります。
- ・同一科目名を重複して受けるパターン 物理基礎・化学基礎 + 化学
 - ・同一科目名を重複させず受けるパターン 生物基礎・物理基礎 + 化学

どちらのパターンでもセンター試験を受けることは可能ですが、左の表を見てもらうとわかるように、C パターンで受ける人は、「同一科目名を含む選択不可」と書かれています。つまり、「物理基礎・化学基礎 + 化学」ではダメだということです。
理科の C パターンで受ける人は、出願時は記入しなくていいですが、受けたい大学が同一科目名を含んでいてもよいかどうか、あらゆる可能性を考えて調べてください。

※地歴公民を 2 科目受ける人は、「政経」と「倫理・政経」のように、同一科目名を含む 2 科目は受験すること自体できません。

④この具体例で検証してみましょう。

地歴・公民では、第 1 解答科目「日本史 B」と第 2 解答科目「倫理」を受験し、理科においては、理科②(基礎を付さない理科)を第 1 解答科目を「地学」、第 2 解答科目を「生物」で受験したとしましょう。

表の理科の科目選択について、「地学」は必要な科目に入っていないので、理系からの受験ができないのは仕方ないにしても、表の理科の右から 2 つ目は、地歴公民から 2 科目、「物理」「化学」「生物」から 1 科目とあるので、具体例の人は出願できると思い、出願したとします。さて、どうなるでしょう。答は「科目不足」で「前期日程不合格(不受理)」となります。科目不足の場合、「科目不足だから別の学校に出願した方がいいですよ」などとやさしく教えてはくれません。受験票の代わりに「不合格」もしくは「不受理」の通知が来て、前期試験に受けに行くことさえできないのです。これが国公立大学の入試です。

「理科の基礎を付さない科目において、第 1 解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合(地学を間違っ受けてしまった場合)、たとえ第 2 解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも、基礎を付さない科目を受験しなかったこととみなします」と注に書かれているので、その通り受験しなかったとみなされ、不合格となるわけです。

出願時には要求されていませんが、地歴・公民、理科②において 2 科目受ける人は、何をどういう順番で受けるか、あらゆる可能性を視野に入れて確認してください。私大のセンター利用入試でも第 1 解答科目が使われることが多く、それが選択していい科目にはいつているか等、とにかくあらゆる可能性を視野にいれてください。

選抜要項等を今一度確認することの大切さがわかってもらえたと思います。(注) までしっかり確認してください。全統マーク模試において、全国的に科目間違いで判定不能とされる生徒が今年は異常に多いです。なんと、志望者の 50 %が科目不足の判定で返却された国公立大もあります。いかに全国的に受験科目についての認識が甘いかがわかります。